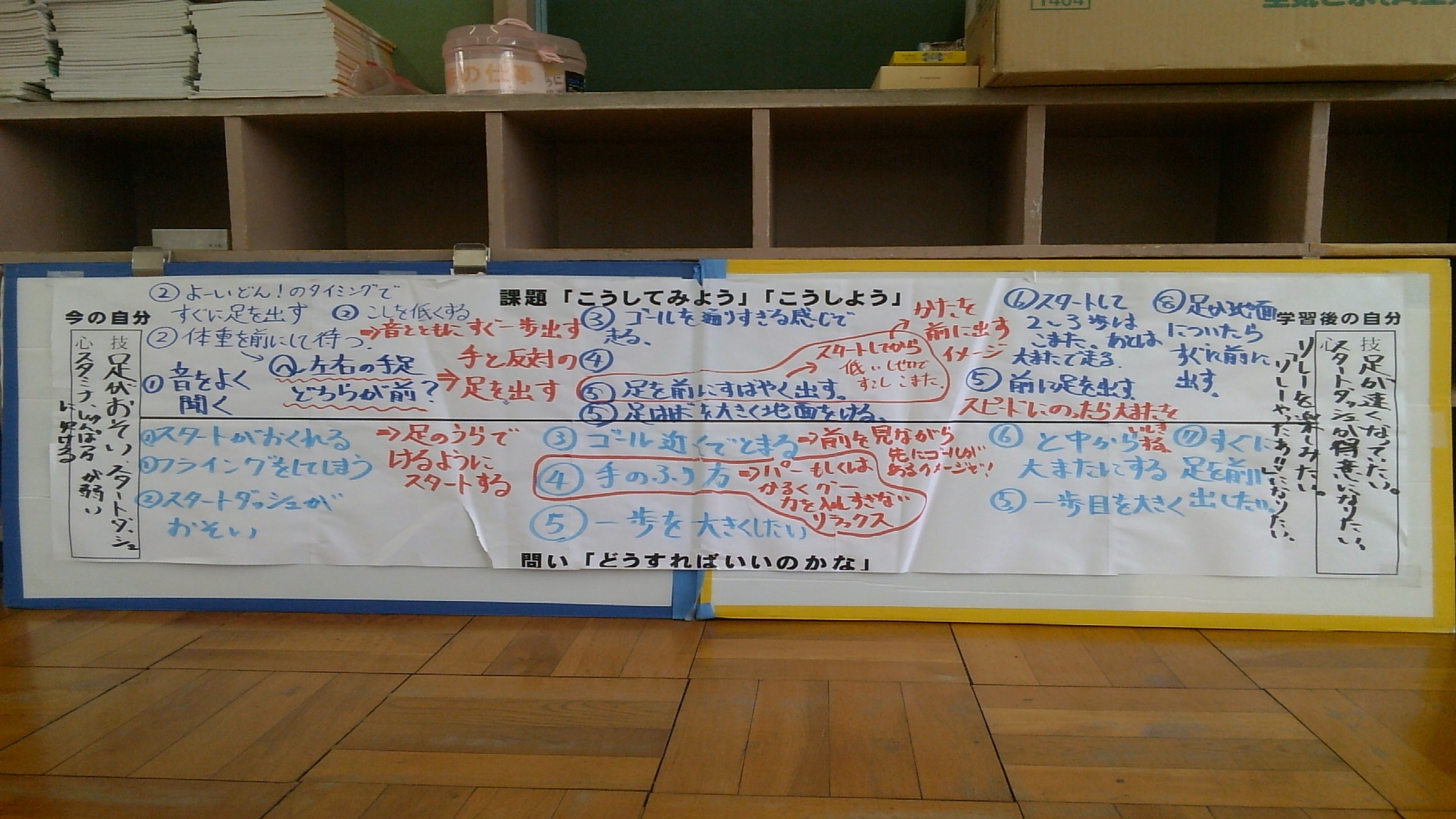
提案授業② ４年１組 体育科　菅野学級　授業日　12月1日（水）

「C走・跳の運動」ア　かけっこ・リレー

Ⅰ、学習を終えて

１、子どもたちの学びのロードマップ

子どもたちの願いや思い、問や課題、解決方法をマップに示したり、単元終了後の姿を設けたりして、自分たちの思い描いたゴールまで到達するためにどんな学習にしていくか単元そのものを共有した跡。課題を見出しながら解決を図っていく学びのサイクルが単元全般で表れた。



２、アンケートより

①、短距離走は好きですか

（前）　好き４５．５％　　少し好き１８．２％　　少しきらい２７．３％　　きらい９．１％

（後）　好き５７．１％　　少し好き　　２０％　　少しきらい１７．１％　　きらい５．８％

②、もっと早く走りたいと思ったことはありますか

（前）　はい９７％　　　いいえ３％　　　　　　　　（後）　はい８８．６％　いいえ１１．４％

３、子どもの姿より

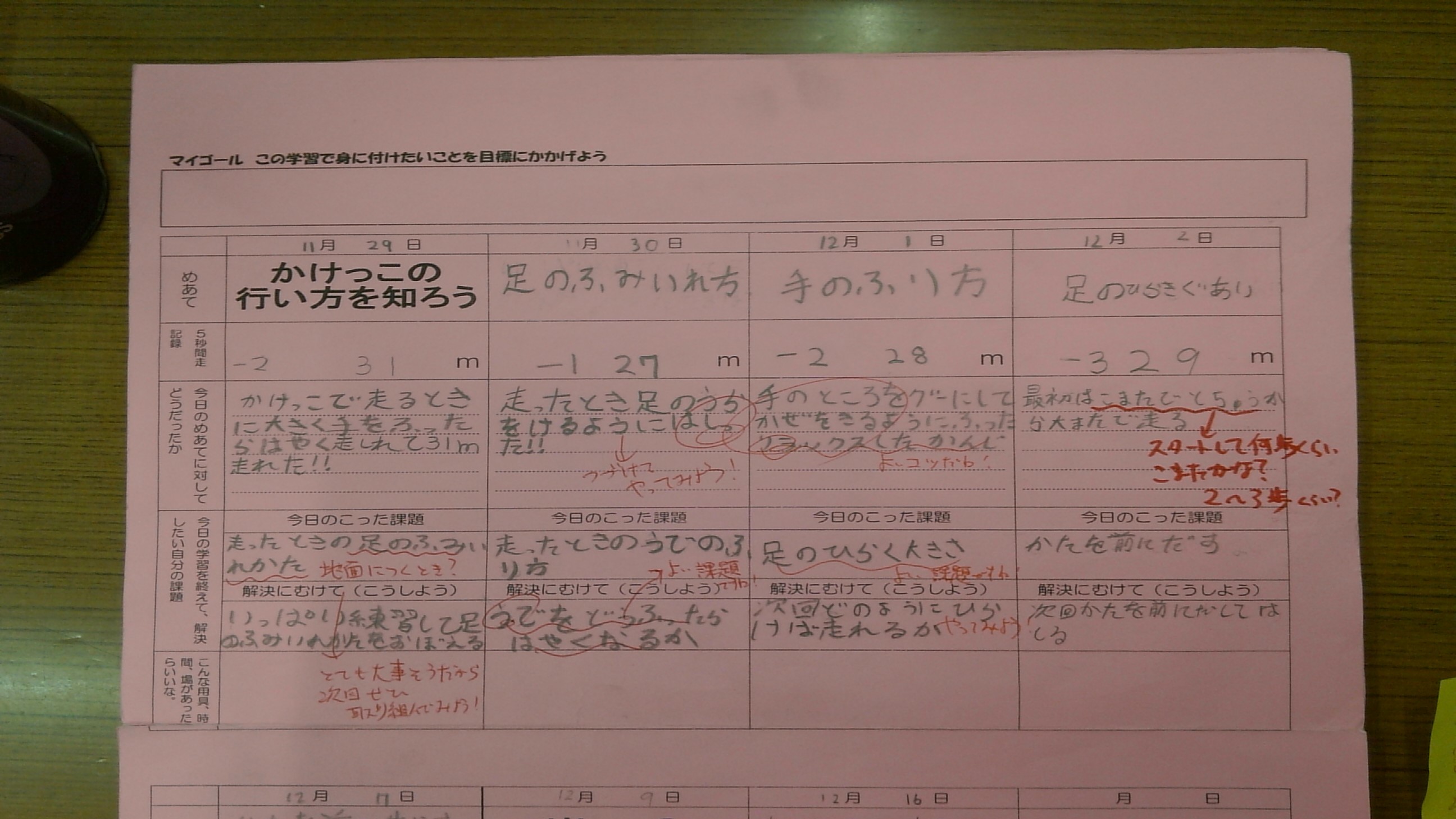
①５０ｍ走のクラス平均タイム　　　　　　　　　②スタート姿勢で同じ手足が前にでる

（前）　９．８５秒　　（後）　９．５２秒　　　　　　（前）３４人中２２人　　（後）３１人中０人

４、ワークシートより

めあてに対して課題を見出し、次時の解決方法考えてめあてにつなげる学びの跡

自分の課題を解決してくために思考を働かせながら判断し、表現している様子



Ⅱ、成果と課題

知識、技能については、大きく伸ばすことができた。５０ｍのクラス平均タイムが０．３秒上がるだけでなく、クラス全員の子どもたちの記録が上がったことで、学習の成果を自身で感じられたことも大きい。技能の向上は、運動をアナロゴン化して主運動につなげられたことで自然と合理的な走り方を素地が養えたことと、主運動の「５秒間走」が夢中になって取り組める教材として子どもたちに当てはまっていたことで、個々の課題を達成させるための運動強度が十分に確保できたことも向上の要因となった。

思考、判断、表現では、協働的に取り組む手立てがとても生きた。かかわり合いながら学習をすすめられたことで、掲示物やワークシートのとおり、問いや課題解決の場面で具体的な言葉となって交わされ合う学習となった。さらに子どもたちが扱う言語内容に着目しても、合理的な走り方にかなう言葉が表出していた。指導案のとおり掲示物やワークシートの工夫や、個々の到達度から教師側の問いかけを工夫していったことによる成果を感じているし、思考、判断、表現を働かせたことが知識、技能の向上にも大きな一因となった。

主体的に学習に取り組む態度は、主体的・対話的になる学習展開の手立てにより、課題解決を粘り強く図る姿を見取ることができた。一方で、アンケートのとおり「もっと早く走りたいと思うか」という質問に対して「いいえ」と答えた子どもが学習後に３人増えたことに課題を感じた。「鬼ごっこをしてもどうせつまかるから」「速く走れなくたって悪いことはない」などといった固定的なマインドセットで運動を捉え続けていることが分かったので、成長的なマインドセットで体育学習にかかわる子どもたちを育成していくことが今後の大きな課題である。